

工事の
げんば
現場より
かいたい
解体すべしやる
～はずす・と・わかる～

げんざい こうじちゅう りんしゅんかく
現在工事中の臨春閣では、耐震補強工事
おこな も行っています。今ある壁を取り外して、
あたが がんじょう おおが さぎょう
新しく頑丈なものにする大掛かりな作業
です。壁だけでなく、一旦天井や床の部
ぶん かいたい ひつよう
分まで解体をする必要があります。



たたみとりはず
畳取外し

たたみ くら ばんづけ しる
畳の裏に番付を記す



だいさんおくてんかく まろ うき
第三屋天梁の間には炉が切っていました。



たいしんへき せこう かべかいたい
耐震壁施工のための壁解体
ともな しょうへきが
に伴う障壁画のまくり

しゅうり
四分のとりはずし

たたみ いちぶ のこ とりはず
畳は一部を残して取外しました。取外し前に位置を記録しておき、必ず元に戻せるようにします。



しょうへきが
障壁画のまくり



たいしんへき せこう かべかいたい ともな しょうへきが
耐震壁施工のための壁解体に伴う障壁画のまくり
さぎょう おこな しょうへきが したじ かべ しょう
作業を行ったところ、障壁画下地となる壁に、昭
わ ねんだい しゅうりこうじじ ほきょう おこな
和30年代の修理工事時に補強のようなものが行
わ れていたことが確認されました。



昭和三十一年度
に新規にする

昭和31年度
修補

ぶぶん かべ しょうわ ねんだい しゅうり たすさ だいく
この部分の壁からは昭和30年代に修理に携わった大工さん
しる ぼくしよ ほっけん
が記した墨書が発見されました。

ぼくしよ
※墨書
すま じりしる ちじき ず すみ か せん れつか
：墨で記した文字や図のこと。墨で書いた線は劣化しにくい
けんちくし しるし けんちくし
ので、建築時の印となり、また後世に残る記録となる。



ふすまとりはず
襖取外し

ふすま とりはず げんざいしつない えぶすま
襖も取外し。現在室内にある絵襖は
いんさつ ぶくせいひん
コロタイプ印刷による複製品です
だいじ びじゅつひんせんもん
が、大事なものであるため美術品専門の
うんぱんぎょうしゃ いらい こんぼう うんそう おこな
運搬業者に依頼して梱包・運送を行
いました。



らんまとりはず
欄間取外し

なにわじゅうえいわか しきし おさ らんま とりはず
「浪華十詠和歌色紙」が収められた欄間取外し



てんかく ま がつき りゅうてき とりはず
天梁の間の楽器（竜笛）取外し

らんま とりはず
欄間も取外しました。傷みや汚れが目立ったので
しゅうり せいそう おこな だいさんおく らんま がつき
修理と清掃を行います。第三屋の欄間は、楽器は
はず らんかんぶぶん のこ
外しましたが欄干部分は残されています。



建具補修

だいちおく だいす ま はす きき なら と いちぶ きき れつか
第一屋台子の間には、蓮の茎を並べた戸があります。一部の茎が劣化していたため今回修理工事の対象と
ざいりょう さんけいえん ほすけい さいしゅう
なり、そのための材料を三溪園の蓮池から採集しました。

